

テーマ：2009年4-6月期GDP予測値の改訂

発表日：2009年8月11日（火）

～1980年以降の遡及結果反映と季節調整のかけ直しに伴い、予測値を若干下方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 前期比年率+3.3%（従来予測：同+3.9%）を予想

2009年4-6月期の実質GDP成長率（8月17日公表予定）は前期比年率+3.3%（前期比+0.8%）を予測する。当社は、7月31日の段階で前期比年率+3.9%（前期比+1.0%）を予想していたが、若干の下方修正を行った。

これまで、平成12年基準におけるGDPの数値は1994年以降のものしか公表されていなかったが、内閣府は7月8日に、1980年以降の数値についての遡及結果を公表した。そして、この遡及結果についても、8月17日に公表される4-6月期QEに反映させるという発表が内閣府から8月7日になされたことから、予測値の修正を行うことにした。

遡及結果の反映に際しては、季節調整モデルの再設定と季節調整のかけ直しも同時に行われる。季節調整を行う期間も1980年からになる¹。これに従って季節調整をかけ直したところ、4-6月期の予測値は、輸出が前期比+6.8%に下方修正（従来予測値：同+7.5%）、輸入が▲2.3%に上方修正（同▲2.5%）、住宅投資が同▲9.7%（同▲10.7%）に上方修正、公共投資が同+8.0%（同+10.3%）に下方修正となった。なお、8月10日に公表された国際収支統計の結果については、従来予測値に比べて、輸出は上方修正要因、輸入は下方修正要因だったのだが、季節調整のかけ直しの影響の方が大きかった²。

現時点で、民間調査機関による事前予測値の中心値は前期比年率+3.7%であり、4-6月期のQEが比較的高い伸びになることはコンセンサスになっている。もっとも、+1%台を見込む機関もあれば+6%台を予想する機関もあるなど、予想はかなりばらついている。今回は、在庫投資や政府消費に関して不確定要素が非常に大きく、攪乱要因になる可能性があることに加え、遡及結果の反映と季節調整のかけ直しという要因もあって、予測が難しい。予測値はかなり幅を持つてみる必要があると思われる。

なお、今回のQEでは季節調整モデルの再設定と季節調整のかけ直しが行われることから、季節調整値の過去数値の改訂幅が、通常よりも大きくなる可能性があることにも注意が必要である。

（需要項目ごとの予測値の詳細と解説は、Economic Indicators「2009年4-6月期GDP予測」（7月31日発行）をご参照ください）

図表 2009年4-6月期GDP予測

	8月11日時点 の予測値	7月31日時点の 予測値
	実質 前期比	実質 前期比
国内総生産(GDP) (前期比年率)	0.8 3.3	1.0 3.9
内需寄与度	▲0.2	▲0.1
(うち民需)	▲0.6	▲0.5
(うち公需)	0.4	0.4
外需寄与度	1.0	1.1
民間最終消費支出	0.7	0.7
民間住宅	▲9.7	▲10.7
民間企業設備	▲4.5	▲4.5
民間在庫品増加(寄与度)	0.0	0.0
政府最終消費支出	0.3	0.3
公的固定資本形成	8.0	10.3
財貨・サービスの輸出	6.8	7.5
財貨・サービスの輸入	▲2.3	▲2.5

¹ 国内家計最終消費支出、民間企業設備、民間在庫品増加については、①1980～1993年、②1994年以降に分けて季節調整を行う。

² 6月分の家計消費状況調査の結果も個人消費の予測値に反映させたが、特に予測値に変更はなかった。